

1次産業を支援するスマート化の最新動向

当地域の1次産業の活性化とともにビジネスチャンスの創出を図るために、2023年1月24日(火)、一次産業はスマート化で変わる!? 最新動向セミナーを開催し、スマート化の必要性やスマート技術を活用したツール、植物工場などの最新動向、当地の1次産業の事業者による取り組み・課題を紹介しました。

1次産業におけるスマート化は私たちにどう役立つのだろうか

以前から技術はありましたが、この10年間で広がりを感じています。また、IT主導から農業界主導に変化しています。その中で、農業者の世代交代も進んでおり、スマート農業の必要性も明らかになりつつあります。現在、スマート農業技術は4つの類型に分けられます(①トラクターなどの農業機器の自動化②ドローン・センサー等のICT製品③画像・センサなどのデータ解析④業務情報管理するソフトウェア)。スマート技術を活用すると身体的負担の軽減や現場の見える化、情報の共有、経験・勘・度胸の裏付けなどの効果を得られます。このようにデジタルを技術にどう組み込むか、活かすかが事業を成長させる仕組みに繋がると考えています。これからのスマート農業は、楽になる技術ですが、それをどのように活用するかが大きな課題となりますので、ご自身のありたい姿を描き、整理し、できることから取り組んでいただければと思います。

一般社団法人日本農業情報システム協会
専務理事 堀 明人 さん



当地の1次産業の事業者による取り組み・課題紹介

大正4年創業、今年で107年目の会社です。飼料の販売から始まり、採卵鶏の養鶏場の運営、鶏卵の販売、雛の育成事業、稲作を始めとする農業、飲食店の運営、スーパーマーケットの運営を行う会社です。

藤橋家の特徴は、餌であるお米(飼料用米)を鶏糞を使って栽培し、鶏に飼料として与える循環型農業に取り組む点です。自社内だけの取り組みではなく、近隣農家様にも協力をいただきながら農業を営んでいます。

また、1次産業+αとして、どんなに良い農産物を生産しても、その価値を理解してもらえないと、ほかの生産者と同じ価格でしか売れないことから、ブランディングし、農産物を商品に変える取り組みも行っています。現在は、飼料用米と稲わら事業の取り組みに注力しています。2023年には、稲わらの収集面積を50町に増やす予定にしており、今後も拡大させていきます。飼料用米と稲わら事業に興味があれば是非お問い合わせください。

株式会社藤橋商店
取締役サポート事業部長 武田 勘吾 さん



植物工場の最新動向と参入事例

植物工場とは、植物の工場的生産が行える施設です。特徴としては、①周年計画生産が可能である②狭いスペースでより効率よく、植物の生産が可能である③無農薬栽培が可能である④農産物の規格化が可能であり、より高品質なものが得られる⑤作業工程がある程度まで自動化、省力化が図れるがあります。植物工場を取り巻く環境として、業務用・一般消費者用でニーズが拡大しています。生産も大規模化(レタス日産1万株以上)し、価格競争になり、市場価格はなかなか上がらない状況です。また、植物工場野菜は、レタス全体の1~2%程度しかシェアはなく、露地や水耕栽培の供給・市場に左右される状況です。海外と比較しても投資規模が非常に大きいため、日本よりも先進的なプラントが増えてきています。

今後は都市部の空いたビルを活用した都市型の栽培施設も出てくる可能性があるため、従来の農業と共存する形で植物工場を発展できればと考えています。

植物工場普及振興会 会長 中村 謙治 さん



セミナーの詳細はコチラから

当日の様子(セミナー内容)は、YouTubeからご覧いただけます。

ご興味があれば是非ご覧ください。

(協力：一般社団法人

日本農業情報システム協会)

